

女性が活躍するために 私たちができること

山下クラス 2班

目次

1

社会の現状

2

女性の活躍についての意見

3

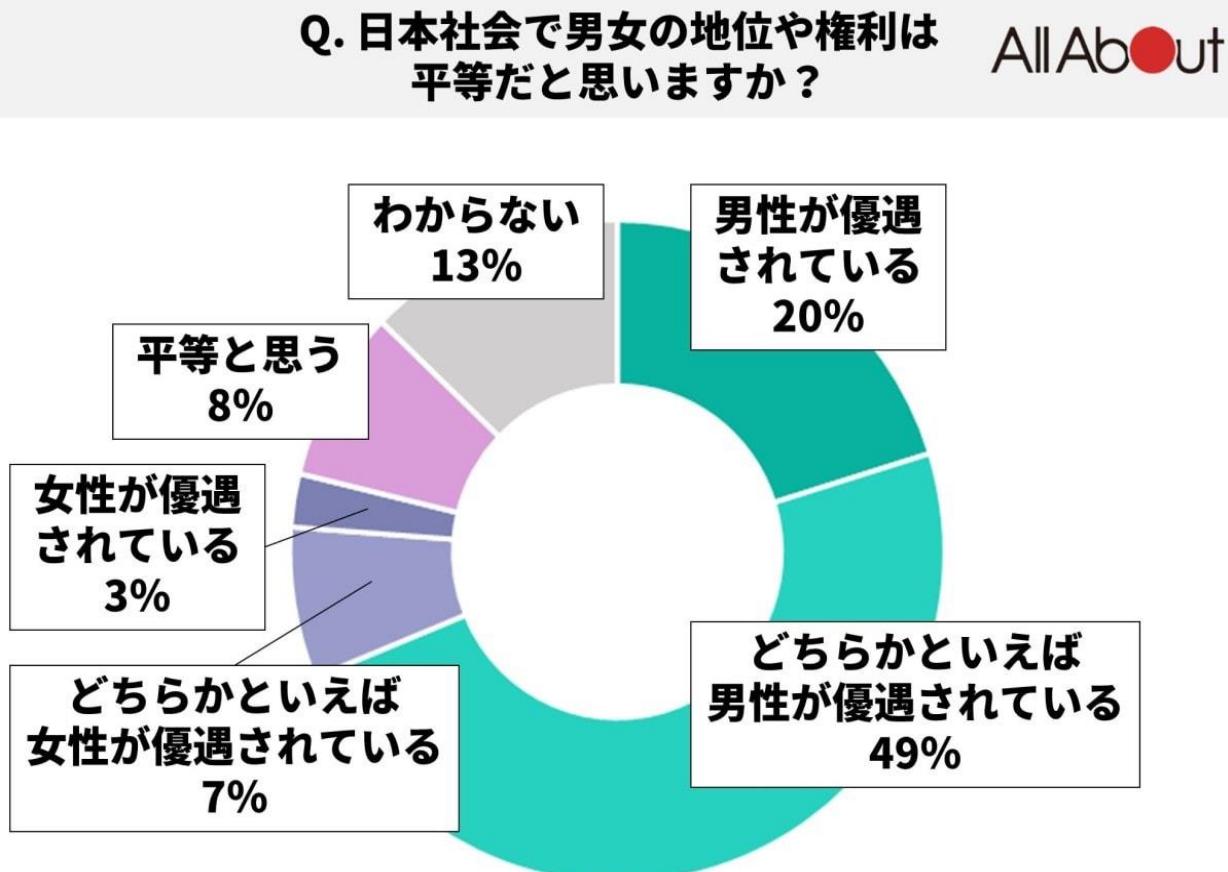
女性、男性、世間の視点からの
女性の活躍の見え方

4

まとめ・参考文献

なぜ女性の活躍が話題になっているのか

- ・社会で女性が活躍できる環境整備が進む一方で、まだ課題が多い
- ・構造的な課題と意識の課題



※All About編集部 独自調査 (n=500) をもとに作成

固定観念とはなにか

- ・男はこう、女はこうといった思い込みや期待
- ・無意識に行動や発言を左右している

例：「男性は仕事、女性は家事」など
昔から存在している考え方



社会に根付く固定観念の具体例

- ・ **教育**：男の子には理系、女の子には文系を勧める傾向
- ・ **職場**：女性は補助的な役割を期待されがち（学生の場合：マネージャーなど）
- ・ **メディア**：性別で描かれるキャラクター像が偏る



男女平等を意識しそぎて逆に女性が有利になっていること

- ・ **女性枠の導入**…政治,大学,企業などで、女性の割合を増やすために「女性枠」を設けると、「男性より実力が同じか少し下でも女性が選ばれるのでは？」と感じる人が出てくる。
- ・ **育休制度**…多くの場合、女性が育休を取りやすく、男性は取りづらい雰囲気が残る。制度自体は男女平等だが、実際は女性だけが手厚く見えることも。
- ・ **危険な作業や重労働の免除**…「女性には無理だろう」という理由で軽い作業に回され、結果として負担が少なく、男性だけ重労働になってしまうケース。

女性側の意見

- ・本来、不利だった状況を埋めるための措置
- ・結局は女性に負担が多い
- ・優遇されているように見えても、逆に生きづらさもある



男性側の意見

- ・平等と言いながら不公平に感じる
- ・男性も育児や家庭に参加したいのに制度が追いつかない
- ・重労働・危険作業が男性に偏る



これらのこと踏まえてどうすること が正解？

- ・過度な「女性だけ優遇」を一度見直す…女性が社会で不利だった歴史を埋めるための制度は重要。しかし、「女性なら誰でも優先される」仕組みは不公平感を生む。
↓
- ・女性枠ではなく、「様々な背景を持つ人を増やす枠」に変更する。
- ・業績や能力を基準の1つにしつつ、性別の偏りもチェックするという“中間のやり方”が現実的。

これらのこと踏まえてどうするこ とが正解？

- ・ **男性も女性も“取りやすい空気”を作る…**制度があっても、男性は育休が取りにくい。女性は「女性だから採用された」と言われるなど、実際は空気や文化が障害になっている。
↓
- ・ 育休を取った男性の評価を下げない。
- ・ 「女性枠」ではなく、男女とも透明な選考基準を作る。
- ・ 性別で役割を固定しない

これらのこと踏まえてどうするこ とが正解？

- ・**お互いの負担を見る化する**… 「自分の方がしんどい」と思いやすいのは、相手が背負っているものが見えにくいいから。



- ・家事・育児の時間や負担を可視化する。
- ・職場の業務量を客観的に分析する。



それぞれの立場への理解が深まり、“不公平だ”という感情が減る。

「男女どちらも損しない社会」

性別で得したり損したりするのではなく、「一人ひとりが“個人として”実力を発揮しやすい社会」が理想。



女性だから有利でも不利でもない。男性だから重労働・育児できない、のような固定観念がない。性別に関係なく挑戦しやすい環境。

女性から見た女性の活躍

- ・自己実現の場の拡大
(キャリア・家庭・社会貢献など)



- ・ロールモデルの存在
(政治家や起業家として成功した女性)

- ・課題認識
(働き方や家庭との両立などにハードルあり)

- ・支援を求める声
(制度面・周囲の理解・メンタルサポートが重要)

男性から見た女性の活躍

- ・**共働き社会の進展**：家庭・職場での役割分担の再定義が進む
- ・**ポジティブな影響**：多様な視点が職場の創造性を高め、成果に繋がる
- ・**意識の変化**：ジェンダーの固定観念がやや薄れつつある
- ・**課題**：未だに残る「無意識の偏見」や「昇進への壁」

世間から見た女性の活躍

- ・ **社会的評価の変化**：例) メディアで「女性のリーダー」「専門家」としての露出が増加
- ・ **政策的後押し**：育児支援制度、企業の女性管理職比率向上目標など
- ・ **文化・価値観の転換期**：性別より「個人の能力」で評価する流れ
- ・ **今後の視点**：真の平等達成には「男性の働き方改革」も必要

私たちができること

- ・自分の中の当たり前を問い直す
- ・会話や話し合いでの偏った発言を見直す
- ・多様なロールモデルに触れる
- ・異なる性別・価値観の人の意見を尊重する

まとめ

- ・ 固定観念は誰の中にもあるが、気づけば変えられる
- ・ 「性別に関係なく、自分らしく活躍できる社会」を目指す
- ・ 女性が活躍する社会は「誰もが活躍できる社会」への道筋
- ・ 男女が互いに支えあうことで社会全体の活力が高まる